

決算審査特別委員会

第58号議案・平成19年度白石市各会計歳入歳出決算の認定については、定例会第2日目（9月4日）の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員（議会選出）を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会（委員長 四竈 英夫、副委員長 佐久間 儀郎）は、9月9日及び10日の2日間にわたる審査ののち、反対及び賛成の討論があり、表決の結果、賛成多数で認定することに決定しました。

審査の中で論議された主な点は次のとおりです。

一般会計

〔質疑〕原油高騰の状況下、スパッシュランドしろいしの温水プール、岩風呂は燃料を使ってお湯を沸かさなければならぬが、今後どのような対策を行うか伺いたい。

〔答弁〕A重油も100円を超え大変厳しい状況になっている。他の源泉の活用等について検討委員会で検討したが、いわゆる引き湯は、費用や所有権の問題があり、多額の費用がかかるため、沸かし湯となっ

ている。

現在、お湯を効率よく使う方法を検討するとともに、これまでA重油を使って発電と給湯（コージェネレーション）をしてきたが、電力料金と比べても不利な状況になっているためコージェネレーションを使わない方向で経費削減を考えている。

また、給湯システムを調査して、いくらかでも燃料を削減できる方法を検討している。

〔質疑〕事務事業評価の市民満足度調査の結果をどう行政に生かすか伺いたい。

〔答弁〕市民に20の質問を行い、どのように認知をしているか、あるいはその事業に共感しているかを重点的に調査したものである。

市民バスのように非常に共感度が高く、認知されている事業もあるが、例えば若い世代が利用するホームページの利用度などについてはもう工夫が必要だと思っている。

市民の皆さんの率直な声を聞く重要な事業であると思っており、今後も継続してまいりたい。

〔質疑〕白石市民バス運行管理事業の平成19年度実績を伺いたい。

〔答弁〕平成18年度と比較して4千802人、4.2%の増加となっており、特に大網線が9.2%増加、越河線2.1%、白角線が2.0%の増加となっている。

平成19年度 市民バス利用実績

	利用者数（人）	一日平均（人）
福 岡 線	34,711	142
三 本 木 線	8,222	34
大 網 線	1,223	24
白 川 線	2,909	30
薬 師 堂 線	8,786	36
越 河 線	28,299	116
白 角 線	16,590	68
大 張 線	18,660	76

（対前年比4.2%増）

〔質疑〕語学指導事業についてどのような効果があったか伺いたい。

〔答弁〕現在3名の語学指導助手を教育委員会に採用している。

一番のねらいは、ネイティブスピーカー（その言語を幼小の頃から話している人）として、日本人ではできない、非常に微妙なところの外国人特有の発音が、子どもたちの耳の訓練になることである。

英会話を教えるわけではなく、会話が続くかどうかはヒアリングができるかどうか

にかかっているもので、できるだけ生の英語を早目に子供たちに聞かせていくことが大事だと思っている。

もう一つは、自分が英語を使って通じたという喜びが外国語学習に対する意欲につながるという面も非常に大きいので、継続をしながら改善工夫を図っていきたい。

〔質疑〕白石駅前駐車場の利用台数が1千台近く減少し、収入も百万円余の減少となった理由について伺いたい。

〔答弁〕昨年、旧宮交バスターミナルが解体され跡地に民間の駐車場ができて、その影響が出たためである。

市の駐車場は約100台ほど定期利用ができるが、月平均で、契約が20%ほど落ち、一時80台程度になった。

同駐車場は機械管理で安心して使えることから、通勤通学の方々に広報をしたところ徐々に低下傾向はとまり、若干の回復をしている。